



2023年 3月15日  
第167号

# JR 東労組 Yokohama

JR東労組横浜地本

発行人 助川一実

編集情宣担当

ホームページ

<http://www.jreu-yokohama1.jp/>



## イーハトーブ

3月15日号

3月5〜6日、私は後輩と東日本大震災現地踏査を行ってきた。その中の東京電力廃炉資料館において、不可解な事象に遭遇した。スタッフの案内が終わった後、案内されていない展示物等を見学しようとしたところ「勝手に見学しないでください」と頑なに見学を断られてしまった。今回が4度目の訪問となるが、こんな事は初めてで、これまでには時間があるなら見学して良かったはずなのに一体何があったのだろうか。都合のいい所だけ見てもらい、見られたくないものもあるのだろうかと感じてならなかった。廃炉資料館とはいえ、企業の秘密主義が垣間見えた瞬間であった。

2011年3月12日の東京電力福島第1原子力発電所1号機水素爆発から12年が経過した今も、原発近くの街には人気の無い家が建ち並び、時が止まったままであった。車内にも関わらず線量計は警告音が鳴り続け、見えない恐怖が目の前にあった。復興したくても復興することができない現実を見ることのできた。しかし、その現実が帰宅困難区域の一部解除等によりあたたかも復興が進んでいるかのように報道で映し出されて、かき消されている。さらには、岸田内閣が2月28日、最長60年とされている原発の運転期間を実質的に延長できるようにする法案を閣議決定した。また、汚染水の海洋放出も決定し理解を求めていくとしている。どちらも国会という開かれた場ではなく、閣議という閉ざされた場での決定であり、今までの常識を覆し、国民が見えない、知られたくない形で進めたい姿勢の表れである。臭い物には蓋をして、嘘や誤魔化しで、我々を欺く姿勢は、東電だけではなくJR東日本や現政権も全く同じである。

一方で、その政権を選んでいるのは、我々国民であるのも事実である。先日、JR東労組横浜地本推薦議員団の県政報告会に参加して、「中央で良い政策を策定したとしても、地方で実行できるだけの議会でなければ意味がなくなる」という報告を受けて、地方議会も変えていかなければ、中央議会を変えるだけでは意味がないことと地方議会の重要性を学んだ。まもなく、第20回統一地方選挙が行われる。JR東労組推薦議員全員の当選を勝ち取るためにも応援活動を担い、必ず投票に行こう！（K・O）

### イーハトーブとは

「注文の多い料理店」や「雨ニモマケズ」などの著者として有名な宮沢賢治による造語です。故郷の岩手県をモチーフとし、彼の心の中にある理想郷を示す言葉です。

社会に目を向け、新しいものを積極的に取り入れ、農民の生活向上のために最後まで尽力した宮沢賢治の生き方に学びながら、私たちが外に目を向け、私たちが安心して働き暮らせる理想郷を実現していこうという想いを込め、イーハトーブというタイトルで情報発信を行っていきます。